

## 令和6年度大磯町補助金等評価委員会 議事録

○日時 令和6年5月11日（土）9:15～11:30

○場所 大磯町保健センター 2階研修室

○出席者 委員5名出席

○事務局 町民課長、町民課担当職員

○傍聴者 5名

○会議記録

### 1. 議題

#### (1) 令和5年度町民活動推進補助金事業結果報告について【公開】

##### ○令和5年度報告事業ナンバー①

◆報告団体：一般社団法人 海鈴大磯

◆事業名称：「ふるさと回帰支援センター大磯」大磯移住・定住支援事業

◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり

◆補助金の交付額： 250,000 円

◆質疑応答

【委員】御報告ありがとうございました。移住相談を令和4年以前から続けてこられて、令和5年になって少し状況が変わられた事や、続けてきたことで変化が起きたこと等、特徴的な事は何かありますか。

【団体】まず、大磯全体で若い人たちが、移住し始めている感じはあります。特徴として面白いのは、30代から40代の子育て支援の家族と、60代前後の御夫婦が都会での生活を一区切りつけて、終の棲家として、大磯を候補として挙げて来られるという方が実は半々いらっしゃいます。今年引っ越された50代の御夫婦は今お住みになっています。あと、やって一番問題なのは、あちこち案内して気に入ったところはどこかないですかと言ったときに、中々移住者の希望にマッチする物件の紹介がなかなかできない。大磯町も空き家バンクの活動を一生懸命やられていますが、希望者からの登録はあるのですが、これという物件がなかなか出てこない。たまに出てもすぐ埋まってしまうという事で、駅前の不動産屋さんとかいろいろなところを紹介するのですが、やはり移住者目線で物件を紹介できる場所がもう少しあるといいという気がしています。

【委員】今回、移住決定者の方が4名とありますが、物件のマッチングがうまくいけばもう少し増えた可能性があるという事でしょうか。

【団体】物件待ちされている方はいらっしゃって、先週もいらっしゃってます。

条件が合えばすぐにでも移ってきたいという方がいらっしゃいます。

【委員】そういう方とのつながりは、地域の不動産屋さんにとってもプラスだと思いますので、ぜひそういうつながりをもっと作っていただければと思います。ありがとうございます。

【委員】継続をして続けられている中で、今、不動産屋さんからの物件とのアンマッチというようなところがありましたけれども、アンマッチの理由で、何か特徴的なものはあるのでしょうか。例えば、価格帯が折り合いがつかないとか、駅からの距離が思っているものとマッチしないとか、ここに物件はあるのに、交通手段がやはり 60 代の方だと、車を将来的には手放そうと考えた時に、交通の便が良くないという事を言ってらっしゃったとかという事を、不動産業界の方とのコミュニケーションの中で情報共有できているとかはあるのでしょうか。

【団体】私共は直接不動産業者とはタイアップしないので、こういうところがあるのを見てくださいますと。大きなプラットフォームで持っている情報がありますから、そこをまず見ていただいて、いい物件があったら不動産屋さんに聞いてもらう。それが一番的確な情報が入るのではないかなと。どうしても今、土地を買って分譲してそこを売って家を建てるという事なんです、不動産屋さんは。欲しい人は古民家でも自分でリノベーションして住みたいという人も結構いるんです。贅沢言えばちょっと畑でもあればいいかなという人もいますが、それで大磯の駅まで通勤できるというところで言うんですけど、あまりないんです。なるべく移住者目線でもっと熱心に動いてくれる方が増えると良いかなと。

【委員】ありがとうございます。

【委員】いろいろ移住者がよくテレビとかで見ますが、若者の移住者がかなりテレビの中では増えているのですが、大磯はどうですかね、そういう来られる方は。

【団体】昔よりは増えています。若い人も増えているし、それから割と人生を充実させて、最後の住みかとして探されることが多いです。

鎌倉、藤沢、茅ヶ崎、平塚とかでは、どんどん増えてきたが、高いので大磯に来る人もいるし、大磯が高いから二宮へ行く人もいるし色々です。物件的には大磯の方が条件に合うという事で、この前も鎌倉から引っ越してくる人がいました。

【委員】あと、町の大磯の駅近くは利便性がいいが、私が住んでいる山のほう  
は、バスがどんどん削減されたりします。交通の便が悪くて移住が中々進  
まないという話は聞きますかね。

【団体】若い人はちょっとね。体験の中で秋に必ずやる黒岩のみかん狩り体験  
があるんですが、富士見平の富士山の見えるところはものすごく良いロケ  
ーションで皆さん感動して、住みたいがここだと通えないなということ  
でいろいろありますが、大磯の中にいても、そういうのがちょこちょこ動  
けますので、駅から近いところで通える範囲のところに住むのが一番適切  
だと思います。

【委員】過疎化が進むのは、どうしてもやはり山の方が進みますので、できる  
限り移住者をそちらにスライドしてもらって活性化を図ってもらいたい  
と思います。

【委員】移住前の居住地を見ますと、大磯ともともと縁のない方が多いのかな  
と思います。移住されてから周りの住民の方とうまくやっていけるかとか  
土地になじめるかとか、そういった不安を抱えている方がいなかったとか  
そういう話があったときに支援というか、どう考えていらっしゃるのかと  
いう事をお聞きしたいのですが。

【団体】私どもは、観光案内するのを目的で移住支援をしているのではなく、  
地域で活動してもらって、そのあと移住した人は本当に地域で活躍しても  
らいたいと思っています。そういった人たちがどんどん増えてほしいとい  
う事で、大磯左義長もそうですが、左義長は昔からある国の無形文化財な  
んですけど、もちろんやっている方は地元の高齢者の方々なのですが、支  
援している若い方達がたくさんいるんです。そういう方たちの活動をつぶ  
さに見ていただいて、自分たちもこういう活動をしたいなと、大磯良いな  
と思ってもらえるように今、体験ツアーの中では必ず移住した人がどんな  
形で若い人達が活躍しているかということを紹介しています。

【委員】わかりました。

【委員】1年間、活動お疲れさまでした。収支決算書を見ますと、自己資金を  
相当出されていますが、今後、パンフレットにもあるりっぱな建物で、修  
繕がかなり完成して終えられていると思うので、今後の資金的な継続して  
事業をしていただきたいのですが、資金的な面はどうか。

【団体】大変厳しいですね。できればこちらの方に言ってください。

神奈川県は県西の自治体には、そういう支援を出しているところもありま

すし、大磯町には支援がないですから、我々を支援することは難しいと思うのですが、色々な形で応援してもらえるように、これからもいいタグを組んでいきたいと思います。今回資金として民泊が動き出しますので、事業の一部をこれに充てます。

【委員】関連しての質問ですが、今年度は今までやってきたすてき発見体験ツアーは継続されますか。

【団体】今早速、政策課に言ってきましたが、6月2日に初夏の大磯発見体験というものをやります。

【委員】厳しい状況だと思いますが、これで終わってしまうのは残念ですので、続けていただければと思います。ツアーなどはもう少し受益者負担を増やすなど工夫できるとよいと思いました。

それでは、以上で時間になりましたので終わりにしたいと思います。  
団体の皆様ありがとうございました。

#### ○令和5年度報告事業ナンバー②

◆申請団体：谷戸川溪谷をきれいにする会

◆事業名称：谷戸川自然再生プロジェクト

◆事業効果、実施内容：実績報告書、収支決算書のとおり

◆補助金の交付額：137,000 円

◆質疑応答

【委員】地域の環境保全のための地道な活動で、特にゴミ拾いなどは大変だろうと思いますが、スライドを見ると皆さん楽しそうにやっておられる姿が凄く印象的でした。やはり楽しむことが出来るから続けられるんだろうと感じました。それが参加者が増えていることにつながっているんだろうと思いました。一つは、今回、植生の調査をされて、植生調査報告書をいただいたとの事ですが、この報告を今後の活動にどう活かしていくのかということです。もう一点は、今回会員募集されたとの事です。会費収入がゼロになっています。現在会員が何人くらいおられて、会費は特にいただいていないのか、その辺のところを教えてください。

【団体】最初の活動のあたりは自然体というかボランティアの活動、会費はとらない。要は自分たちの町をきれいにしようね、みんなで大事にし

ようね、目の前にあるごみを拾おうねという気持ちがあって集まっていますので、当然会員募集も2017年から8年たっていますが、年によって出たり入ったりしております。現在8名です。男性6人に女性が3人かな。間違えました全部で9人です。人数的には当初は7人であまり増えていません。出たり入ったりしていましたが、当然、皆さん最初は気持ちというか、そういうところに参加したいと来るんですよ。やはり、我々のやっていることは川の中に入って、泥まみれになってみないとわからないので、やっぱりちょっと無理ねという方もいますし、それから竹などを処理したときに、ある部分ではお金にしなければいけないところもあって、備品を売ったりとか。竹で杭を作って売ったりすると、その行為が気に食わないと。あくまでボランティアだろうと。お金が絡む仕事は嫌だと。今はいろいろな考え方の方がいますので、メンバーが来てくれたから誰でもそのまま残ってくれるという環境ではありません。今後はそういうことも含めて単純な作業に共感できる人達だけに残っていただけるように、それから今来てくれている子供達が大きくなって、意思を継いでくれるという事も期待しています。

【委員】会員についてはわかりました。一つ目の植生調査についてはどうですか。

【団体】基本的には、倒れた竹を片付けた。そこに空き地が出来ました。土留めをしました。植える木を何にしますか。紅葉とか、適正な温度というところで、のべつそれが出来るとは思っていません。だから順次、土地がきれいになったところに植えていく。年度的には3年、5年、10年というスパンで見えていかないとできる作業ではないのかなと思います。ただ、今は純粋にその場所を綺麗にしたいという作業をしています。

【委員】ありがとうございました。会費についてはわかりました。会費をいただいてないという事なんですよ。それで良いかどうかというのはわかりませんが、お子さんが関わっているというのは大事だなと思っていて、例えば、学生会員とか子供会員という制度を設けて、あなたたちも仲間だよ、メンバーだよと巻き込んでもよいのではないかと、思いました。

【団体】ありがとうございます。ちょっと考えてみます。

【委員】私は、谷戸川近くに住んでいまして、竹を整備されたとの事で、整備されたものを維持するのが大変だと思います。毎回の草刈りだとか。

あと、うちの方にも子供会があるのですが、子供会がどんどん消滅して子供を巻き込むというのなかなか巻き込まれないので、子供達を巻き込んだ活動にしていただけたらなんと、非常に良い活動なので。地域が、本当に原生林になってきているので、草刈りだけでも大変だし、私も不動川の淵を歩くんですけどもやっぱり草だらけで、だんだん歩いているところに草が生い茂っているので刈らなきゃなと思うのですが、そんな活動なので、非常に大事な活動だと思いますので、できる限り仲間を募って、子供達も巻き込んでやっていただけたらいいかなと思いました。

【団体】補足すると、現在我々が8名、9名でやってはいますけども、私たち以外でも一人で単独で自分で鎌をもって歩きながら、草を取っている方が、二人ほどおられるのかな。たまにすれ違って、あいさつするのですが、あくまで単独で関わってくる方もいらっしゃいます。

【委員】ありがとうございました。令和6年度からですかね、企業さんに御協力いただきながらという事で継続性のあるものということで形を発展しながらやっていただけたことがすごく良かったなと思います。若い方にも、会員としてではないかもしれないのですが、活動も一緒にやっていただけているという状況は非常に良いなと評価をさせていただいています。それが、こういった活動をされている方に多い部分なのですが、自然を良い環境に整えていただくということもありながら、体を動かしたりですとか外に出ていくという自然に触れるという部分で、活動してくださっている方自身の元気にもつながっているのではないかなと思っていますので、ぜひそういった部分もPRしながら新しく会員募集するときには、自然環境のところもそうですが、活動されている方の心と身体の部分にもとても良い活動だと思っていますので、そういったところもぜひPRしていただけたらいいなと思いました。

【委員】収支決算書を見て思ったのが、崖崩れになりそうなところ、危険な箇所もあると思うのですが、保険料も経費に入れても良かったと思うのですが、保険はかけてらっしゃらないのですか。

【団体】ボランティア保険はかけております。大磯町の社協の団体保険に入っています。

【委員】重機が必要なところというのはユンボですか。今年度は水脈確保はありますか。

【団体】まだありません。結局重機となるととんでもなくお金がかかります

のでいろいろと相談しながら、近所にも工事屋さんがおられますので、一応応援いただいているということで相談しながら。お金かければ簡単なんです、このとおりの予算ですので、なるべくお金をかけないようにしています。そうなった場合にはきちんと説明しながら応援していただいているところもありますので、相談してまいります。

【委員】ありがとうございました。では、お時間になりましたので質疑は終了とさせていただきます。

## (2) 令和6年度町民活動推進補助金事業採択に係る審査について【公開】

### ・令和6年度審査事業ナンバー①

◆申請団体：ひとり

◆事業名称：地域にひらいた、日中のこどもの居場所づくり事業

◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の交付額：100,000円

◆質疑応答

【委員】とても大切な活動だなと思いながら聞いておりました。今現在何人くらいが利用されているのか、こういったお子さんが来られているのか教えてください。資料によると、スタッフは基本1人でやられているとの事ですが、会員数が3名となっていますので、どういう体制で運営されているのか。それと、こういう活動は知っていただかないとそもそも来られないと思うので、今来られているお子さんはどういうきっかけでこの場所を知って来るようになったのか。今後、まだ来ていない潜在的な利用者に対してどのように伝えていくおつもりか。色々言って申し訳ないのですが、以上について御説明ください。

【団体】まず子供の数ですが、たくさん来ればいいという性質のものではないと思っていますので、時には1人も来ないときもあります。昨日も開室していて、お昼ご飯を食べに来た親子がいたが、ほとりの時間を目指して来た人は、その日はいなかったんですね。日によっては、小学生が1人で来て、高校生が3人来て、4人とか。あと中学生も1人混じって5～6人という日もあります。その日によって違うというところです。10人も20人も来る日はないです。スタッフは、基本私1人でやっています。

ただ、町民活動団体としては、この活動と一緒に考えて支えてくれる仲間として3人は今いて、今後、この活動に対して賛同してくれる仲間を、少しずつ同じ方向を向いて、一緒に考えて時には手伝ってくれるというボランティアスタッフとして中に入ってくれる仲間を随時募集中というところで、今はまだ段階としてはまだ立ち上がったばかりなので、そんな形でやっています。基本は月水金一人でいますが、月に一回心理士さん、看護師さんが伊勢原や秦野から来てくれているという状況です。今後ですが、まだ始まったばかりなのですが、教育支援室のつばさの先生とは少し話しているところなのですが、私が直接それぞれの学校に行って、「ほとり」の説明をして、学校から状況を聞いてこの子というやり取りをするまではやっておらず、つばささんを間にハブとして情報をお互いに伝えて、そこで初めてこの子はつばさには来れないけれどもほとりならいけるのではないかというような流れをこれから作っていくというところで、今度5月23日に学校関係のコーディネーターの先生の養護教諭とか生徒指導の担当の先生、そして私だけではなくて大磯町内の不登校関係の子供の居場所とか親の会の方々を集めた協議会が行われます。その時にまたほとりの活動について説明して、皆さんに平たく周知していただいて、こういうケースではここはどうなのかなという事を皆さんに知っていただく機会を少しずつ設けていきたいと思います。

【委員】ありがとうございました。現状お一人で週3回やられているということで結構大変だなと思いますね。一緒に関わっていただける方が1人でも2人でも早く見つかるといいなと思います。

【委員】私は、平塚でいろいろな団体に加わっていて、県の自立支援センターと絡みがあって支援をしているのですが、子供たちが来れないというのは精神的なものもあるし、大人を信用していないと。自立支援センターには子育てを放棄したりする親御さんたちなどが来ていますので、すごく接するのに微妙なニュアンスで接しないと本当に接することができないという部分もあるので、今活動を始めたばかりで、非常に良い活動ですけども、うまく各団体と連携を取りながらやっていかないと、食事の提供もそうなのですが、NPO法人の子供食堂とかそういうところともタイアップしながら、負担をなるべく軽減させるような努力も必要だろうし、最初に言った通り、告知する場合も基本的にSNSだと個人情報がかかり飛んじゃいますからね、気を付けないと本当にいけない部分もある



し、それと民生委員・児童委員と連携を取りながら、情報を活用しながら来れない子供をどうやって来れるようにするかというその辺を今後の課題として残るんじゃないかなと思いますので、大変ですけど非常に良い活動だと思いますので頑張ってくださいと思います。以上です。

【委員】大切な活動をされていると思うのですが、一点気になったのが、コミュニティスペースヤッホーさんというのは使用料がなしですか。

【団体】いえ、社協さんの建物を借りている形でして、たくさん社協さんからの支援をいただきながら、補助いただきながら運営しているのですが、使用料が月々11,000円かかっておりまして、そちらは一般社団法人ヤッホーが借りているという形になっています。その中でほとりは活動しています。

【委員】こちらでは使用料はなしという事ですか。

【団体】そうです。

【委員】とても大切な活動で、頑張って継続していただきたいという思いで聞かせていただきました。その中で、委員長も心配されていたように、スタッフお一人という事で、おそらく御協力いただいているボランティアさん等が関わって下さっているとは思いますが、やはり、安全管理の部分で、お一人も来ない場合もあるよという事もあったのですが、2人、3人とお見えになっているときに例えば、怪我しちゃったとか、緊急の対応をしなければならなくなった時に、一人だけだとどうしても対応の限界があるかと思いますので、そこはぜひ複数人での対応を進めていただくのが必要かなと感じました。それと、活動は、ヤッホーさんとの絡みがあるのかもしれませんが、ひとりさんとしては、特に来ていただいているお子さんに対してというか、ひとりさんの活動としては保険料というのはかけていらっしゃらないという事で特に問題はないという認識で活動されているのでしょうか。

【団体】今のところは保険料はかけないで活動しています。基本的には、室内でゆっくり過ごす子が多いという現状がありまして、ただ今後、色々なお子さんが来て外出して過ごすということで、すごく活動的なお子さんがいらした場合は、少し遅いとは思いますが考えながらやっていきたいと思います。それと今は一人でやっているのですが、大磯町の中のみんなで子育てしようというのもひとつだと私は思ってやっていますので、例えば10教えるのが上手だとか、昔、学習支援やっていたとか、折り紙

のマスターだとかいろんな方がいらっしゃると思うんですね。ご高齢の方も若い方もいらっしゃると思いますので、そういう方に知っていただいて、自分もリラックスするくらいの気持ちで来ていただいて、一緒に過ごして大人の目を一人でも増やすという形でやっていけたらなと思っています。

【委員】お食事の提供はされているという事で、お子さんは小学生くらいのお子さんがあると気を付けていただきたいとかお願いごとなのですが、アレルギーのあるお子さんがいらっしゃると思いますので、食事の提供の時にはそういったところも十分に安全管理のほうのご対応をしていただければと思います。

【団体】アレルギーに関しては、とても繊細というか、必ず聞いて食材提供と、毎回必ず聞いてやっております。自分の子供もアレルギー持ちだったというのもあって、すごくよくわかっておりますので、そのあたりはかなり気を付けています。ありがとうございます。

【委員】不登校の子供の受入場所は地域に必要なだととても思います。素晴らしい活動だと思います。今、ほとりさんで9時半から14時と言われていたのですが、その間皆さんは思い思いのことをして過ごして子供たちはいらっしゃるのでしょうか。

小学生のお子さんですと、ちょこちょこ来るようになると勉強とか大丈夫なのかなと。学習というか、勉強とか宿題などたまになさったり、そういうことをやっていらっしゃるのでしょうか。

【団体】まさにおっしゃる通りで、小学校低学年の子が週に一回くらいは来るようになっているんです。そういう子に対しては、ずっと一緒に遊んでいるよというのは違うなと私は思っていて、できる限り自発的に計算だとか文字を書こうとするような仕組みを少しずつ作っています。例えば、食堂のメニューも書く。そこで彼女の苦手な部分も見て、今度、これもやってみようかというドリルとか手作りなのですが、そういうものを与えて、じゃあ、これちょっとやってみようねというような活動も少しずつしているというような形です。年齢層が高くなってくると、基本的にはようやく家から出られたという子が来ているという状況なので、まずは、陽の光を浴びることが目的。毎食ではないけれど、お昼ご飯ぐらいはまともなご飯を食べるのが目的。それぞれの子供のケースによって目的が変わってくるので、そのあたりは個々に見ながら対

応しているという状況です。

【委員】ありがとうございました。

【委員】コミュニティスペースの中におられるという事ですので、色々な地域の団体や活動されている皆さんとつながりを持つ機会があると思います。こういった活動は、地域のつながりの中で、さっきおっしゃったように支えられていくものだと思います。二宮町の遊びの庭さんもそのような形でやられていると思います。具体的に何というのは申し上げにくいのですが、ぜひ色々な団体とのつながりの中でひとりさんのリソースを増やしていったら、例えば、谷戸川溪谷さんの報告が先ほどありましたが、第一木曜日に活動されているんですね。このようなところに参加するのも楽しいかもしれないですし、そんな風に今のところお一人の活動かもしれないですが、つながりの中で充実させていけるとよいと思います。

【団体】そうですね。そういういろんなことがあるよという。木曜日はこれがあるよといったことを発信できる場ではありたいと思っております。

【委員】ありがとうございました。

・ 令和6年度審査事業ナンバー②

◆申請団体：Lopo (Life of Photography Oiso)

◆事業名称：地域と人、人と人をつなぐ、大磯写真芸術プロジェクト事業

◆事業効果、実施内容：企画提案申請書、収支予算見込書のとおり

◆補助金の交付希望額：100,000円

◆質疑

【委員】大磯がこんな写真と縁があるというのは初めてお聞きしました。そうことを捉えた活動という事で、とてもユニークな活動だと感じました。最後のお話で、魅力の伝達につながるという事ですが、まずはフリーマガジン作って基本的にはお店とかに置いていくという事ですね。しかし、それだけでは、その先の、魅力の伝達や人のつながりというところにはなかなかつながらないのではないかと思いますかどうか。

【団体】おっしゃる通りだと思います。フリーマガジンは手段で、この鷺の舞の写真は、写真家が鷺の舞の方にアポをとって話を聞いて撮影をして、ストーリーと共に直接語る、展示する。そして、見た人に、鷺の舞を知ら

ない方が多いと思いますが、そういうところを色んな角度で、それが農業かもしれませんし、できるのではないかと考えておりますので、展示だったり、直接話したり、写った人が、何か登場したり、そういったこともできると思うのですが、きっかけとして、こういうような形あるものを作ること自体がきっかけになるので、まずはこれを実践していくということです。

【委員】撮影をされるのは、大磯在住の写真家さんですか

【団体】そうです。

【委員】プロのフォトグラファーですか。協力していただけますか。

【団体】そういう人だけで皆、この活動はギャラをもらってやる仕事の活動ではなくて、何故彼らがやってくれるかというところだけ大磯に面白いテーマがあるという事と彼らは町民であり、つながる事を面白がってくれるという事ですね。誰でも彼でも増やすという事ではありません

【委員】現状賛同していただけるという事ですか。

【団体】そうです。非常に力強いメンバーが6名ほどの作家がいます。

【委員】いろいろ町民活動という事で、写真を作りあげたり、活動があるのですが、広報、要するに宣伝、皆に知ってもらうための活動とこれをどうしていくのかということ。それともう一つは、今後、学校などに行って、学校の生徒たちに大磯の地域の写真で、大磯の魅力をどう発信していくか。それもかなり大事だと思っていて、そういうことを考えられているか教えてください。

【団体】文化芸術活動でありながら、次世代の人へのアプローチとか、写真に必ずしも興味のある人たちだけでなく多くの方が楽しんでいただける事を目的に考えていますので、そういう意味では、私も住んでいて町内活動が増えてきたので、そういうところからお店だったり色々な口コミで共有してもらおう事とか、あと、おっしゃっていた通り教育関係ですね。初年度ある程度に作ります。これを皆さんに見てもらって良いものだねってなったら、少し部数を増やしたりして、学校で配布したり、興味ある子供に体験をしてもらうことができたらいいと思います。一回形にしたり、こういうことを話したりすると一緒にやってみたいとおっしゃってくださる方もいますので、そういうこともできれば良いかなと思います。

あと、町の文化芸術祭でも発表するという事で、そういう機会でも知ってもらおうという事も考えています、去年そういうふうにはやりました。

【委員】先ほどの話に出てきましたけれど、町の補助金を使ってする事業という事で、もともと写真芸術に興味のない人もいかに取り込んでいくかというところですけども、フォトマガジンを具体的にどこに配布するのでしょうか。あと、大磯町の中で展示されるという事ですが、こういったところを想定されているか教えてください。

【団体】さっき説明を割愛してしまったのですが、去年やった展示は図書館でやって、非常に多くの多世代の方がいらしてくださいました。去年やったことは、大磯の写真を皆さんが応募して 128 の方が応募してくれて、それを見に来るアクセス良い図書館でもやりまして、それをやりながらも先ほどの鷺の舞がある種芸術性の高い作品と一緒に展示して連続的に見てもらった、あとこういう体験してもらってという事もやっていて、それにはまた図書館かどうかはわかりませんが、町の皆さんが自然に来やすい場所を、それが民間ギャラリーかもしれないし、町の施設かもしれないけれども、そういうようなことです。フォトマガジンの配布の仕方は基本的にはこういうことに興味を持ちやすいような飲食店だったりとか、店舗とかですね。という部分と、先ほどもおっしゃっていただきましたが、教育関係のところは是非できるといいなと思っています。そういう意味では、もう少し部数の見積もりを取ったりですとか検討したりという事ですが、おそらく2段階くらいあると思っていて、まず、試験的に作って、ある程度身近な範囲、数百部くらいやっていきたいのと、全部行き届かせるというかももう少し広くやったりとかすると 5,000 部くらいと思っておりますので、ちょっとそこはいきなり広い範囲とかは色々補助できるのか企業と協賛してもらうのかその辺の仕組みをやりながら考えたいと思っています。そういったところで段階的にうまく届くべき方に届いていくというところを2年くらいかけてやっていきたいと考えています。

【委員】ありがとうございました。

【委員】ありがとうございます。やはり、補助金を活用してというところになりますので、ぜひ、多くの方に知ってもらって、活動している方々の為、あるいはその周辺の方たちの為だけではなくて、大磯のことを知ってもらうとか、再発見してもらうとか、そういったところに是非つながるようにしていただきたいなというところの中で、お仕事されていて色々活動をする、それはそれで大変なんだというご苦労があると思うのですが、いろんな地域活動とつながった中で、うまく写真を通じて大磯の良さをで

できれば幅広く色々な所に発信していただくという事、初年度は、フォトマガジンというところだと思うのですが、継続性というところでも、計画をもう少し具体的に教えていただきたいと思います。

【団体】そうですね。まず、地域全体では、おっしゃる通り、私も町内会の青年部をやっていたり、文化芸術祭実行委員とかもやっていますし。あと、ある程度9年くらい住んでだいぶ地域とのつながりもできましたので、そういうところに出して、あくまで一部の作家達が作って一部配布しているだけではないという事を念頭に置いていますので、ただ大事にしたいなと思います。あとは、この時もやって、このイメージに近いと思うのですが、子供向けの写真ワークショップを何回かやっています。子供だけではなくて大人向けもやっています。そういったような機会とか、あとは写真館ですね、一緒にやっている作家の方がワンコインとかまあ、投げ銭ですね。相手にお任せしている写真館になると思うのですが、かなり高いレベルのものをボランティアでやってくれたりしたんですけど、そのあたりは結構興味のある方たちを巻き込める形になるので、あとは展示ですね。まず、一つのきっかけは、これを発表するタイミングでの展示とか写真館とかワークショップですね。さらにはそういった事もタウンニュースさんとか湘南ジャーナルさんとかは非常に応援してくれているので、地域メディアでも出していったいですね、うまく波及してくれればいいなと思っています。

【委員】先ほど、大変だというお話がありましたが、メンバーについて教えてください。会員数7名とありますが、この7名はどんな方でしょうか。一緒にやってくれるお仲間ですか

【団体】そうです。初年度で企画者発起人で、まず、形を作らなければと思います私が多め動いたのですが、皆そういうところわかっているメンバーなので。基本的には、皆写真の仕事をしていて、先生とかフォトグラファーだったり、作家とかという人達です。その周りに広報の人とか動画の人とか色々な仲間だったりとか地域活動のプロデューサーとかの仲間がいて、団体としてはメンバーと周辺にいる仲間たちなので、あとはあまり無理しすぎず、持続性が重要なので、去年は立ち上げだったので相当無理したのですが、みんなに助けてもらいながらやっていこうと思っています。

【委員】それは、そのようなつながりがあるから、やり方次第で人的な部分でのサポートが得られる可能性はあるという事ですか。

【団体】 はい、そう思っています。

【委員】 わかりました。ありがとうございます。

【委員】 お疲れさまでした。去年というのが、何度か出てきますけれど、去年は別の団体として活動していたのでしょうか。

【団体】 去年は、実験的にこの大磯写真祭というもののとか、せっかくこういうつながりもできてきたので、皆で何かやってみようという話で、実験的にやったのがこの写真祭だったり、あと、ワークショップ等もやっていたのですが、そういった事で非常に手ごたえがあって町の皆さんが非常に喜んでくださったので、もう少し活動団体的にしたりとか、こういうところでサポートをちゃんと町に認めていただいたりとか、そういう風にもう少しもっと腰を入れてやってみようかなという意図ですね。「Life of Photography Oiso」という名前にして、こういうものを作ったり、より活動的に土台を作ろうかなと思ってやっています。

【委員】 ありがとうございます。特になければ、以上で質疑応答を終わりにします。